

授 業 科 目 名	相談援助	教 員 名	有木 正浩	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義・演習	担当形態	単独		保育士	必修
科 目 番 号	SEN401	配当年次	4年前期	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
単 位 数	1単位				小幼コース	選択
科 目						
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	<p>保育者一人ひとりの相談援助能力が、子どもを取り巻く生活を支える根幹になるという意識を持ち、保育や幼児教育に関わる専門職に求められる社会福祉のソーシャルワークを活用した相談援助の意義を理解する。また、実際の相談援助の演習を通して、具体的な相談援助の技術と方法を身に付ける。</p> <p>(1) 相談援助の理論と目的 相談援助についての理論や目的を理解する。</p> <p>(2) 相談援助の機能と内容 相談援助の技能であるソーシャルワークの基本的機能をふまえ、保育士に求められる役割について理解を深める。</p> <p>(3) 相談援助の実践 相談援助の技法を実践的に理解する。</p>					
到 達 目 標	<p>(1) 相談援助の理論と目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもや子どもの家族の多様な現状をふまえ相談援助の意義を理解する。 相談援助に求められるソーシャルワークを理解する。 ソーシャルワークの目的と原理・原則を理解する。 <p>(2) 相談援助の機能と内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ソーシャルワークの基本的機能を理解する。 ソーシャルワークの実践上の役割を理解する。 保育士に求められる相談援助の過程や技法を理解する。 <p>(3) 相談援助の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもや家族の問題への対応の仕方や技法を実践的に理解する。 関係機関との協働を実践的に理解する。 					
授 業 の 概 要	<p>社会福祉の理念に基づいた相談援助の概要を学び、ソーシャルワークの意味を理解する。さらに、技術と方法を学び、様々な演習を取り入れ実践的な授業を行う。また相談援助は、相談援助の多様な専門職との連携のなかで援助を展開していく必要があることから、連携ネットワークづくりについても学習する。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授 業 計 画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） 相談援助の意義と機能（目標(1)-1）</p> <p>第2回：相談援助の理論Ⅰ（目標(1)-1, 2)3） （1）相談援助の原理・原則 （2）相談援助の3つのモデル</p>					

	<p>第3回：相談援助の理論Ⅱ（目標(1)-2, 3)） (3) 社会福祉におけるソーシャルワークとは 保育におけるソーシャルワークとは</p> <p>第4回：相談援助の方法と理解（目標(1)-2, 3)） (1) 相談援助の対象 (2) 相談援助の過程（ケースの発見⇒インテイク⇒アセスメント⇒プランニング⇒実施と経過観察⇒事後評価⇒アフターケア）</p> <p>第5回：よりよい相談のために（目標(2)-1, 2) 3)） (1) 相談に適した環境 (2) 相談の技術 (3) 相談技術を磨くために（スーパービジョン） (4) 電話相談</p> <p>第6回：個人に対する援助技術（目標(2)-1, 2)） (1) 援助者の基本的態度 (2) 援助者の自己覚知</p> <p>第7回：個別援助の具体的展開（目標(3)1)） (1) 事例紹介と検討</p> <p>第8回：ケースワークとカウンセリングの関係（目標(2)-1) 2) 3)） (1) 共通性・カウンセリングの特性・ケースワークの特性</p> <p>第9回：小集団を活用した相談援助（目標(2)-1) 2) 3)） (1) グループワークの活用 (2) 児童養護施設・アルコール依存治療機関・保育園</p> <p>第10回：相談援助の過程（目標(2)-3)） (1) グループワークの進め方 (2) グループワークの諸原則</p> <p>第11回：記録と評価（目標(2)-3)） (1) 記録の取り方 (2) 評価の記録</p> <p>第12回：連携・協働（目標(3)-2)） (1) 関係機関との連携 (2) 多様な専門職との連携 (3) 社会資源の活用</p> <p>第13回：事例分析（目標(3)-1) 2)） (1) 虐待予防（演習問題）</p> <p>第14回：事例分析(目標(3)-1) 2)） (1) 障害のある子どもと保護者への支援（演習問題）</p> <p>第15回：全体総括 定期試験</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>レポート提出20%、定期試験80% なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>時間外の学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回講義の最後に、次回の講義内容のテキスト箇所を伝えるので、入念に予習しておくこと。また、不明な点等は調べておくこと。 ・講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次回の授業で提出すること。

	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で使った資料やノートファイル管理を徹底すること。 ・講義で使ったテキスト箇所を必ず復習しておくこと。
テ キ ス ト	小林育子 小館静枝 日高洋子 著『相談援助』 萌文書林 2014年
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	相澤謙治・井村圭壯 編『社会福祉の相談援助』 久美出版 2012年 橋本好市・直島正樹 編『保育実践に求められるソーシャルワーカー—子どもと保護者のための相談援助・保育相談支援—』 ミネルヴァ書房 2012年 『幼稚園教育要領（平成29年告示）』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』 『保育所保育指針（平成29年告示）』
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	社会福祉を履修していることが望ましい。 自学自習、ディスカッション、発表など積極的なアクティブラーニングに取り組むこと。
オ フ ィ ス ア ウ ー	講義の前後の空き時間を活用する。